



# 第5回 戸塚宿七福神めぐり

実施期間：平成30年1月5日(金)～11日(木) 10時～16時

荒天時には中止にする場合があります。予めご了承ください。

色紙：1,000円（販売場所の3ヶ寺（妙秀寺・寶藏院・親縁寺）は裏面の地図中に記載してあります）

しんねんじ  
親縁寺  
時宗



## 福祿寿

寿老人とのかかわりについて、同一の神ではないかと云われているが、容姿は全く違う。背丈が低く、頭が長く、足が短く、白髪をたくわえ経巻を結んだ杖を携え、団扇を持って多くは鶴を伴っている。「福（子孫繁栄）」「祿（財産）」「寿（健康長寿）」の三徳を備えることは人徳があつての事と考えられ、人徳の神の代表として七福神に加えられたと伝わる。ご利益は、延命福楽で、幸福、高祿、長寿の三徳のほか、方位除災、商売繁昌、癌や脳卒中平癒など。

本寺では、御朱印は扱っていません。

みょうしゅうじ  
妙秀寺  
日蓮宗



本堂内



境内

## 弁財天

弁天様は七福神の中で唯一の女神である。河川の神であると同時に、川の流れる音は、音楽にたとえられ音楽の神ともなり、雄弁に語る弁舌の神ともなった。その雄弁は智慧の証であることから学問の神、さらに幸運、財宝、子宝などを授ける神ともなった。近世になると福の神として熱烈な信仰を集め、この頃から金運・開運の神として、俗に「弁財天」と書くようになったらしい。湖沼や池などの魔物を鎮める神として各地の水辺に祀られる。

本堂内の弁財天は期間中のみ参拝可能です。

## 布袋尊

かいぞういん  
海藏院  
臨済宗圓覺寺派



布袋尊は七福神の中で唯一実在の人物で、中国唐代末期の禅僧であつたと云われている。本名は契此（かいし）というが、布袋和尚と呼ばれるようになったのは、日頃手に杖を持ち、日用品と喜捨された物を入れた大きな袋を背負って方々を放浪していたことによる。しかし、和尚は仏法の悟りの境地に達した人とも云われ、宗教人の象徴、福運をもたらす神と称せられる。ご利益は慈悲、和合、予知と金運。

## 毘沙門天

ほうぞういん  
寶藏院  
真言宗大覚寺派



仏を守る四天王の一人で北方の守護神であり、その場合は多聞天と呼ばれる。北方にある多くの財産を守っているということに因み福德の神とされ、七福神の一つとなった。甲冑を付けた武人で憤怒形で立ち、宝塔を捧げ、もう一方の手は戟（げき）か宝棒、宝剣を持つ。真言を唱えることで常に災厄を除き、隠れた財宝を授けられ、さらに智慧、容貌、力、弁舌、富などを得るご利益がある。

こうしょうじ  
高松寺  
臨済宗圓覺寺派



## 大黒天

大黒天はインドでは「破壊の神」と云われ恐ろしい神であつたが、中国を経て日本に来てからは、人々に官位や財宝、特に「山の幸」を恵む優しい神に変わり、二表の米俵の上に座した像を寺の台所に安置するようになった。ご利益は商売繁昌で福の神の代表格の恵比寿とともに信仰される。豊臣秀吉がこれを念持仏としていたことから、天下人にした出世守本尊である。台所を預かる寺院の奥さんを「大黒さま」、大黒

天を祀る柱を「大黒柱」と呼ぶようになった。

## 寿老人

らいこうじ  
來迎寺  
浄土宗



昔の七福神は、福祿寿と寿老人は同一人物だとして、寿老人だけが入っていた。ともに古代中国の道教の神様で、南極星の化身とされるが、老子が天に昇ってなった仙人だという説がある。仙人は山中で不老不死の術を修めて神通力を得た者で神と同様に信仰されている。白い髭を伸ばし、経典を付けた杖を持っているのが一般的で、玄鹿を連れていたり、桃を持っていたりするが、全て中国の長寿のシンボルである。ご利益は、福祿寿と同富貴繁栄、身体健全のほか子宝、諸病平癒。

せいげんいん  
清源院  
浄土宗



本堂内

境内

## 毘沙門天

仏を守る四天王の一人で北方の守護神であり、その場合は多聞天と呼ばれる。北方にある多くの財産を守っているということに因み福德の神とされ、七福神の一つとなった。甲冑を付けた武人で憤怒形で立ち、宝塔を捧げ、もう一方の手は戟（げき）か宝棒、宝剣を持つ。真言を唱えることで常に災厄を除き、隠れた財宝を授けられ、さらに、智慧、容貌、力、弁舌、富などを得るご利益がある。

うんりんじ  
雲林寺  
曹洞宗



期にできあがった。海の幸をもたらす神、福の神と云われる。

主催：戸塚宿七福神推進協議会

後援：戸塚区役所・戸塚観光協会・戸塚文化協会